

事業箇所総合評価シート

【担当課:道路建設課】

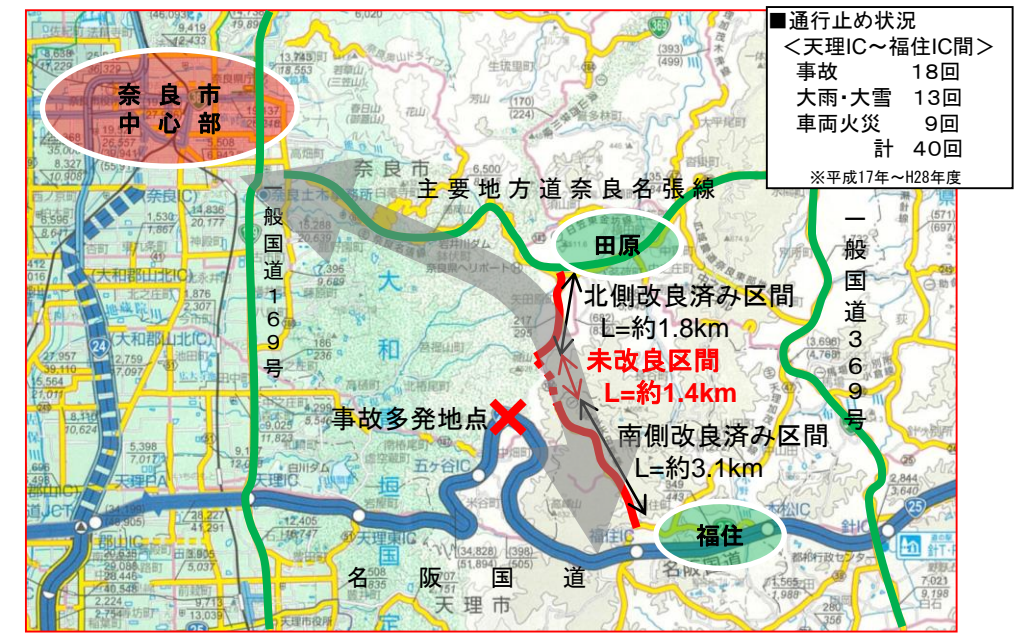
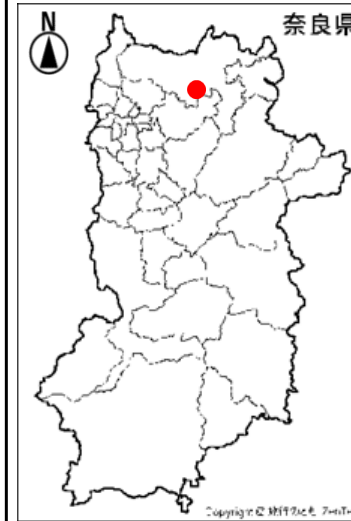
| | | | |
|-----|------------------|------|-------------|
| 事業名 | 防災・安全交付金事業(道路改良) | 路線名等 | 一般県道 福住矢田原線 |
| 箇所名 | 天理市福住町～奈良市矢田原町 | | |

| | | | | |
|-------|-------|---|------|--------|
| 事業の概要 | 目的 | <p>一般県道福住矢田原線は緊急輸送道路である名阪国道と主要地方道奈良名張線を結び、奈良市中心部と名阪国道福住IC間の地域間交流を支える重要な道路である。路線の約8割が改良済みであるが、一部の未改良区間では、線形不良、幅員狭隘、視認距離不足等により、走行性も悪く、離合も非常に困難である。また、冬期には常時路面が凍結する等、日常生活に支障をきたしている状況である。</p> <p>このため、待避所整備により安全・安心の確保とともに、地域住民の生活利便性の向上及び災害等に強いネットワークの構築を図る。</p> <p>【奈良県道路整備基本計画の位置付け】 「安全・安心を支える道路整備の推進」:災害に強い道路整備</p> | | |
| | 事業内容 | <p>計画延長 : L=1.4km 計画諸元 : 第3種5級 設計速度20km/h 待避所整備 事業内容 : 現道拡幅</p> | | |
| | 着手年度 | 平成30年度 | 完成年度 | 平成36年度 |
| | 全体事業費 | 324百万円 | | |

| | | |
|------------|----------------------------------|--|
| 定性的評価 | 事業の必要性 | <p>【必要性】</p> <p>①当路線約6.3kmのうち、両側(北側約1.8km、南側約3.1km)はすでに改良済みであり、残区間約1.4kmのみ(約8割が整備済み)</p> <p>②狭隘かつ急カーブが連続し、線形不良のため安全な離合が困難</p> <p>③「福住校区を中心とした高原地区まちづくり」の基本構想を策定しており、田原と福住の連携を図ることとしている。</p> <p>④名阪国道において、交通規制が多く、名阪国道規制時の迂回路としての役割が期待できるとともに、名阪国道のリダンダンシーが確保できる。</p> |
| | 上位計画等 | |
| | 事業の有効性 (事業により予想される効果及び影響) | <p>①待避所整備を実施することで、安全性の確保ができ、通学・通勤、買い物等地域の生活利便の向上が期待できる。</p> <p>②名阪国道通行規制時に、福住ICから奈良市中心地への広域的な迂回ルートとして期待できる。</p> |
| | コスト縮減への取組み | |
| | 地元情勢等 | <p>○天理市長から早期整備の要望書が提出されている(平成29年8月)</p> <p>○奈良市東部地域国道県道改修期成同盟会から整備について要望書が提出されている(平成12年頃から毎年)</p> <p>○天理市福住町自治会から整備について要望書が提出されている(平成28年10月)</p> |
| 他計画他事業との関連 | 天理市 福住校区を中心とした高原地区のまちづくりに関する基本協定 | |

| | |
|------|---|
| 評価結果 | 左の理由 |
| 採択 | 道路利用者の安全・安心の確保及び地域住民の生活利便性向上の観点から事業実施は妥当である |

【位置図】



■通行止め状況
 <天理IC～福住IC間>
 事故 18回
 大雨・大雪 13回
 車両火災 9回
 計 40回
 ※平成17年～H28年度

【写真】※写真撮影位置は位置図を参照のこと

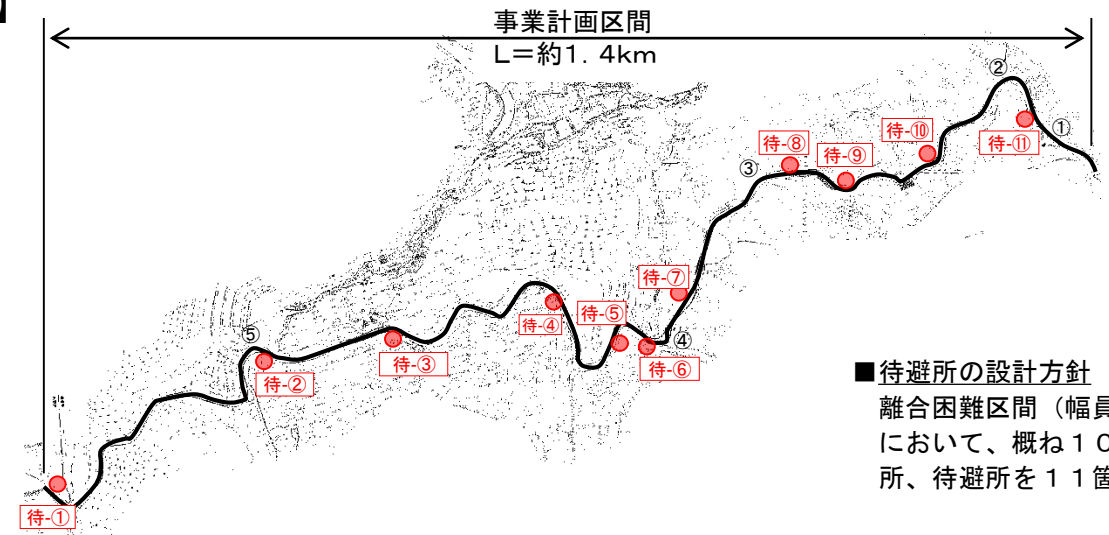


福住矢田原線は、名阪国道福住ICから奈良名張線を経由して奈良市街を結ぶ地域住民にとって重要な生活道路であるが、狭隘かつ急カーブが連続し、線形不良のため安全な離合が困難

離合困難区間:約77%(幅員5m未満)
 急カーブ:18箇所(曲線半径20m以下)
 視距不足箇所:12箇所(視距20m以下)

また、名阪国道はカーブがきつい区間があることから事故が多く、交通規制も頻繁に行われ、規制時は福住ICから福住矢田原線へ交通が流入することになる。

【計画図】



■待避所の設計方針
 離合困難区間(幅員5m未満)において、概ね100mに1箇所、待避所を11箇所設置。